

事務事業の概要・計画 (PLAN)

事務事業名	高額介護サービス費貸付事業	会計名称	一般会計		担当課	長寿介護課	
		予算科目	3 款 1 項 12 目	事業番号	1460	所属長名	室 潤子
事業評価の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 評価対象事業 <input type="checkbox"/> 評価対象外事業 (事業の概要・結果のみ)				担当責任者名	野島 孝美	
法令根拠等	伊予市介護保険高額介護サービス費等貸付規則				実施期間	【開始】	平成 17 年度
総合計画での位置付け	健康福祉都市の創造 健やかで生きがいの持てる高齢者福祉の実践					【終了】	平成 年度(予定) ■ 設定なし
総合計画における本事業の役割	介護保険サービスに要した費用が著しく高額となり、支払いが困難となった被保険者であっても、必要な介護保険サービスが受けられることとなる為、保健福祉の向上につながる。						
事業の対象	介護保険サービスに要した費用が著しく高額であるため、支払いが困難な者で高額介護サービス費等の支給を受ける者。			事業の目的	介護保険サービスに要した費用が著しく高額であるため支払いが困難な者に対し、その費用の一部を貸し付け、必要とする介護保険サービスを容易に受けられるようにすることにより、介護保険被保険者の保健福祉の向上と生活の安定に寄与する。		
事業の内容 (整備内容)	高額介護サービス費等支給見込額の10分の9に相当する額の範囲内を貸し付ける。			昨年度の課題に対する具体的な改善策			

事業活動の内容・成果 (DO)

事業費及び財源内訳 (千円)							事業活動の実績 (活動指標)											
項目	前年度決算	当初予算額	補正予算額	継続費その他	翌年度繰越	決算額	項目	単位	27 年度実績	28 年度予定	9月末の実績	28 年度実績						
直接事業費	0	240	0	0	0	0	申請件数	件	0	2	0	0						
財源内訳																		
国庫支出金	0	0	0	0	0	0							貸付決定額	千円	0	240	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0												
地方債	0	0	0	0	0	0												
その他	0	240	0	0	0	0												
一般財源	0	0	0	0	0	0												
職員の人工(にんく)数	0.05	0.02				0.00												
1人工当たりの人件費単価	8,042	8,086				8,086												
※ 直接事業費+人件費	402	402				0												
主な実施主体	直接実施		実施形態(補助金・指定管理料・委託料等の記載欄)															
向こう5年間の直接事業費の推移 (千円)					29 年度	30 年度	31 年度	32 年度	33 年度	5年間の合計								
					240	240	240	240	240	1,200								
成果指標	指標	貸付決定額	単位	⇒	区分年度	27 年度	28 年度	29 年度	目標 毎 年度									
			千円		目標	240	240	240										
	指標設定の考え方	予算の範囲内での貸付となるため			実績	0												
	指標で表せない効果																	

事務事業評価 (CHECK)

新たな課題や当初の改善策に対する対応状況 (今年度の途中経過)		特になし						
事務事業の評価	自己判定 (担当責任者)	妥当性	<p>5 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。</p> <p>4 概ね、施策の目的に沿った事業である。</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1 この事業では施策の目的を果たすことができない。</p>	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B	事業成果・工夫した点 事業の苦労した点・課題	<p>近年利用申請者はいないため、予算規模を縮小して事業を継続している。</p>
			<p>5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。</p> <p>4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。</p> <p>3</p> <p>2 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。</p> <p>1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。</p>	3				
			<p>5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。</p> <p>4</p> <p>3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。</p> <p>2</p> <p>1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。</p>	3				
		<p>5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。</p> <p>4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。</p> <p>3</p> <p>2 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。</p> <p>1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。</p>	3					
		<p>5 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。</p> <p>4</p> <p>3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。</p> <p>2</p> <p>1 施策推進への貢献は多大である。</p>	3					
		<p>5 施策推進に向け、効果を認めることができる。</p> <p>4</p> <p>3 施策推進につながっていない。</p> <p>2</p> <p>1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。</p>	3					
	効率性	<p>5 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。</p> <p>4</p> <p>3 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。</p> <p>2</p> <p>1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。</p>	3					
		<p>5 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。</p> <p>4</p> <p>3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。</p> <p>2</p> <p>1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。</p>	3					
		<p>5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。</p> <p>4</p> <p>3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。</p> <p>2</p> <p>1 施策の目的を果たすために必要不可欠な事業である。</p>	3					
	一次判定 (所属長)	妥当性	<p>5 概ね、施策の目的に沿った事業である。</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1 この事業では施策の目的を果たすことができない。</p>	3	合計点が 14~15 : S 10~13 : A 8~9 : B 5~7 : C 3~4 : D	B		<p>■ 事業継続と判断する。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業縮小と判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 事業廃止と判断する</p> <p>(判断の理由)</p> <p>実績はなかったが、制度利用の必要な対象者がいるときには必要であるので、継続しておく必要がある。</p>
			<p>5 社会情勢等のニーズに合致する。又は、行政管理上必要な事業である。</p> <p>4 社会情勢に概ね適合する。又は、行政管理上、概ね妥当である。</p> <p>3</p> <p>2 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。</p> <p>1 社会情勢又は行政管理事務に対応しておらず、見直しが必要である。</p>	3				
			<p>5 市が積極的に関与・実施すべき事業である。</p> <p>4</p> <p>3 今のところ市の関与・実施は妥当と判断できる。</p> <p>2</p> <p>1 市は関与しないで、民間や市民団体に委ねるべきである。</p>	3				
<p>5 市民生活の課題、又は行政内部の課題解決に大いに貢献している。</p> <p>4 市民生活や行政内部の課題解決に向けて対応できている。</p> <p>3</p> <p>2 市民生活や行政内部の課題解決になっていない。</p> <p>1 既に相応の成果を得ているが、まだまだ成果向上の余地がある。</p>		3						
<p>5 今後、成果の向上が期待でき、事業継続の必要がある。</p> <p>4</p> <p>3 目的は十分達成されており、事業継続の必要性は低い。</p> <p>2</p> <p>1 施策推進への貢献は多大である。</p>		3						
<p>5 施策推進に向け、効果を認めることができる。</p> <p>4</p> <p>3 施策推進につながっていない。</p> <p>2</p> <p>1 現状では最善の手段であり、他の方策を検討する必要はない。</p>		3						
効率性	<p>5 最適な手段であるが、更に民活、他事業との統合・連携等の検討の余地がある。</p> <p>4</p> <p>3 活動指標の実績も上がらず、効率的な手段の見直しが必要である。</p> <p>2</p> <p>1 投入コスト以上の成果を得ており、コスト削減の余地は見当たらない。</p>	3						
	<p>5 コスト削減に向けた取り組みを実施し、それに見合う成果を得ている。</p> <p>4</p> <p>3 満足する成果にも達せず、まだまだ事業費・人件費の削減余地がある。</p> <p>2</p> <p>1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民の負担は適正と認める。</p>	3						
	<p>5 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の検討の余地がある。</p> <p>4</p> <p>3 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。</p> <p>2</p> <p>1 他事例と比較し、財源・税負担も含め市民負担の見直しが必要である。</p>	3						
所属長の課題認識	<p>必要な対象者のために、制度の継続は必要である。</p>							

施策を踏まえた判断	二次判定	<input type="checkbox"/>	一次判定結果は以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。	⇒ 指摘事項を踏まえ、事務改善、事業推進に努め、今年度の事務事業評価シートに反映させること。
		<input checked="" type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定は以下の点について外部評価が必要と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	一次判定結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。	
		<input type="checkbox"/>	既に事業廃止が決定していることから、廃止に向けた手続を行う。	

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容

今後の方向性 (ACTION)

の経営者判断	事業の方向性		コメント欄
	<input type="checkbox"/>	さらに重点化する。	
	<input checked="" type="checkbox"/>	現状のまま継続する。	
	<input type="checkbox"/>	右記の点を見直しの上、継続する。	
	<input type="checkbox"/>	事業の縮小を行う。	
	<input type="checkbox"/>	事業の休止、廃止を行う。	